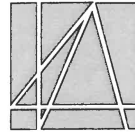


# 清流



No. 41

●発行 社会福祉法人 かなな会  
〒375-0014 群馬県藤岡市下栗須887-1  
TEL 0274-24-5885 FAX 0274-24-6855  
E-mail kannakai-98@triton.ocn.ne.jp

## 「しえんはつづくよ どこまでも」

「チームで取り組む自閉症支援」  
かななの里支援員 原 香



### 1、かななの里の自閉症支援

年齢も経歴も知識も異なる支援員の多くは、かななの里に就職して、初めて、「自閉症」と出会っている。かななの里では、専門知識を持つアドバイザーを迎え、支援員主体で運営、司会進行する施設内の勉強会があり、「自閉症とは何か」「支援とは何か」を基礎から正しく学ぶことができる。アセスメントの重要性、構造化の必要性、アイデアを出し合い、チームで支援することの大切さを再認識できるスキルアップの場になっている。

### 2、勉強会（午後5時30分以降の1時間程度）

①若葉会（第1水曜日）  
新人対象。先輩がテーマに沿ったレジュメを作成し、わかり易く講義する。後半は応用編。

②研鑽会1・2  
（第2、4水曜日）

自由参加。知識を現場の

- ・決まりごとはわかりやすく教えてほしい
- ・変更は早めにわかりやすく教えてほしい
- ・してよい事、してはいけない事を、わかりやすく教えてほしい
- ・触ってはいけないものは見えない場所においてほしい
- ・大きな声でダメ！っていわないでほしい
- ・支援員はだれでもいつでも同じ対応をしてほしい

特性	対応
<b>視覚優位</b> ・見えるものに左右される ・いつも有るべきものが無いことにも敏感	・見えなければ触らない ・いつも同じが安心する
<b>ルール、モラルの理解困難</b> ・視覚優位だからこそ、目に見えないルール、モラルを理解するのが困難 ・教えてもらっていないことは知らない	・正しい行動を視覚支援で伝える
<b>マイルールが発生しやすい</b> ・自分に都合の良い解釈をする認知のゆがみがある ・マイルールの制止は他害へ発展する ・3回までは修正がさく	・先回りの支援が有効 ・さりげない制止
<b>混乱しパニックになると他害、物壊しに発展</b> ・困っていること、伝えたいことを知っている単語を、発して支援員に懸命に伝えようとするところがある ・支援員による対応の違いも本人が混乱し不穏になる原因	・日さんがパニックになった原因を支援員間で共有する ・パニックになった時刻、状況、天候などデータをとり事実のみを拾い上げる

#### 目かくしできないときは

すべてのスイッチ、操作パネルに目かくしをすることは難しい。目かくしできないものに関してはさりげなく制止、トーンを落として的声掛けで対応している。ルーティーンで行動したり職員のスきを突くのが得意な特性があることから、行動パターンを先読みすることも有効である。Hさんが不適切な行動をとりそうな場面では先回りして職員の姿を見せる、職員視線があることを本人に意識してもらうだけでも十分に抑止力になる。

### 3、事例紹介 42才女性

#### 〈特性と対応〉

#### 重度の自閉症、区分6

支援に活かす。チームで支援することの重要性を再認識する場。三ヶ月間、特定の一人の利用者にスポットを当て、具体的な事例を挙げる。迷っていること、困っていることを討論し、解決策を見出し出していく。それを元に実行し、結果を次回でレビュー。計画↓実行↓観察の繰り返し。チームで取り組むことの有効性を再確認。

4、支援は続くよ  
白い杖、車椅子の人、お年寄り等、見た目判断できる人に対しては、周りの人が自然に手助けを考えられる。  
見た目から判断されにくい自閉症は、「困った人」と言われても「困っているだろうな」と思っていて貰えないことが多い。「助けて」とヘルプを出せない人が多く、無理解という虐待を受けてきた人も少なくない。想像し得ないつらい思いを経験している。私たちとは違う感性を持つ自閉症を文化として捉え、歩み寄り、理解しようとするのが支援の

第一歩。  
この行動は何を意味しているのか推測し、こうして欲しいと思っているのかも、しれないと仮説を立てて、支援へとつなげていきたい。十分なアセスメントを積んで、特性を活かして、利用者目線で組み立てた支援は、自立へ向けての「ルール」となる。  
どこで何を、終わったらどうするのか、して良い事、してはいけない事を分かり易いようにルール化し、周知し、視覚支援し、同じ環境、同じ対応をするという統一支援を提供することで、すんなりと「ルール」に乗ってくれる。そして、その「ルール」に沿って、進むべき方向に向かってくれる。それは、かななの里の支援員が共通理解すべき、彼女の優れた特性だ。  
わたしたちの支援には終わりがなく、Piano seeの繰り返しで、あまりの地道さに気が遠くなりそうなこともあるけれど...。  
一人で抱え込まず、時には周りを巻き込んで、支援員全体がチームとなって、取り組んでいこう。  
その先にある「自立」に向かってルールを敷き続けるために。



10月 日帰り旅行



渋川スカイランドパーク



和紙の里 小川町



発地 溪流センター



高山 ロックハート城



10月 保護者会旅行



10月 音楽会



11月 職員研修旅行 (スタジオクーカ)



11月 東朋会清掃ボランティア



11月 非常食昼食



12月 摂食、えん下研究会



12月 クリスマス会 (平井レクレクラブ)



1月 地域支援セミナー (藤村先生を囲んで)



2月 箸入れ作業



2月 玄関前のクリスマスローズ



2月 あすなろ祭用の劇 (ねずみの嫁入り)



3月 花見 (2階のベランダから)

かなの里 令和元年10月～令和2年3月までの主なできごと

- 10月
  - ・個別支援計画見直しのためのケース会議
  - ・日帰り旅行 (9、11日)
  - ・救急法講習会 (17日)
  - ・インフルエンザ予防接種 (21日)
  - ・保護者会旅行 (長野)
  - ・音楽会 (31日)
- 11月
  - ・しのめ信用金庫へ絵画搬入 (～末まで)
  - ・東朋会清掃ボランティア (7月)
  - ・職員研究発表会 (6日 原 香発表)
  - ・インフルエンザ予防接種 (7日)
  - ・秋の定期健康診断 (8日)
  - ・職員研修旅行 (15・22日イブアルトジャパン、スタジオクーカ)
- 12月
  - ・拡大摂食・嚥下会議 (2・17日)
  - ・避難訓練 (9日)
  - ・クリスマス会 (23日)
  - ・かなな会役員会 (24日)
  - ・もちつき (27日)
  - ・冬期帰省 (28日～1月4日)
- 1月
  - ・ゆうあいフェスティバル (8～10日)
  - ・第20回地域支援セミナー (藤村出氏はしご乗り) (11日)
  - ・保護者新年会 (18日)
  - ・新年会 (29日)
- 3月
  - ・避難訓練 (25日)
  - ・新型コロナウイルス流行のため、あすなろ祭、保健衛生管理委員会中止

藤岡市福祉支援センター

もくせい

〈生活介護事業〉

(生活班)

生活班生活介護では、毎月1回の個別対応外出の他に、曜日別の利用に別れての外出や買い物などにも月1回出掛けています。

〈就労継続B型事業〉

(就労班・作業班)

就労継続支援B型事業は、就労班6名、作業班15名、計21名の利用者さんが所属しています。就労班は、就労スキルアップ訓練を行っており、今年度は市内及び近隣に拠点のある企業様の説明会へ参加しました。お仕事の内容や働かされている方の様子など、皆さん真剣に耳を傾けておりました。作業班は、所外活動に力を入れております。体力を使いますが、外へ出ることで息抜きにもなっており、皆さんお給料日を楽しみにされております。今後もより充実した日中活動を目指して支援に努めて参ります



2020/02/03

(記：生活支援員 笠原史裕)



(記：職業指導員 萩原英幸)

もくせい  
令和元年10月～令和2年3月の  
主な出来事

マロニエ

サービス管理責任者 飯島 裕

令和元年度は、3月までに新たな利用者さんが2名増えて、現在21名で活動しています。平成から令和に年号が変わるとても貴重な年でした。10月に行われました、かんなの里、ポプラとの合同の音楽会では、マロニエおなじみの寸劇付の発表で、手話での「マリーゴールド」とダンスでの「パプリカ」を披露し、見事に令和最初の最優秀賞を頂くことが出来ました。審査員の方々や見に来て頂いた保護者の方からはとても好評でした。特に手話でのマリーゴールドは福祉施設らしいとの事で高評価を頂きました。また毎年行っている新年会でもこれら2つを披露し、新年会に参加された全利用者、職員で一つになり、保護者へ披露しました。音楽会に参加できなかった保護者の方にも見て頂けたので、とても良かったと思います。

つたと思います。今年度も引き続き、各利用者の方、個々のニーズに対応した支援に努めていきたいと思っております。そこで利用者の方が通所するのが今まで以上に楽しくなるような環境づくりをしていきたいと思っております。

マロニエ  
令和元年10月～令和2年3月の  
主な出来事

- 10月
  - ・ 秋季一泊研修旅行 (3・4日、社会福祉法人誠心会他)
  - ・ 高崎特別支援学校2名職場実習 (15～18日、21～25日)
  - ・ 所内スポーツ大会 (30日、藤岡ボウル)
  - ・ 利用者インフルエンザ予防接種 (31日)
- 11月
  - ・ 利用者歯科健診 (7日)
  - ・ 利用者健康診断 (8日)
  - ・ 群作連第2ブロック交流会 (20日、富岡市妙義中央公民館)
- 12月
  - ・ クリスマス会(下旬、事業毎)
  - ・ 保護者会・納会 (27日)
  - ・ 冬季休暇 (12月28日～1月5日)
- 1月
  - ・ かなの里地域支援セミナー (11日、みかぼみらい館)
  - ・ 市障害者団体新年会 (18日、八塩温泉)
- 2月
  - ・ 利用者個別面談、個別支援計画策定 (17日～)
- 3月
  - ・ 防災訓練 (26日、藤岡消防署立ち会い)
  - ・ 年度末食事会 (27日、もくせい)



新年会で

いちご狩り

- 10月
  - ・ 親子旅行代替え外出 (24日・25日)
- 11月
  - ・ 音楽会 (31日)
  - ・ インフルエンザ予防接種 (7日)
- 12月
  - ・ 健康診断 (8日)
  - ・ 職員研修旅行2班 (15日&16日・22日&23日)
  - ・ グループ外出 (5グループに分かれてみかん狩り・こんにゃくゼリー作り体験)
- 1月
  - ・ クリスマス会 (24日)
  - ・ もちつき&大掃除 (27日)
  - ・ 冬季休暇 (28日～1月5日)
- 2月
  - ・ ゆうあいフェスティバル見学 (8日～10日)
  - ・ 第20回地域支援セミナー (11日)
  - ・ 新年会 (ニューサンピア高崎) (31日)
- 3月
  - ・ 節分 豆まき (4日)
  - ・ 尊狩り外出 (6グループに分かれて)
  - ・ 年度末大掃除 (31日)

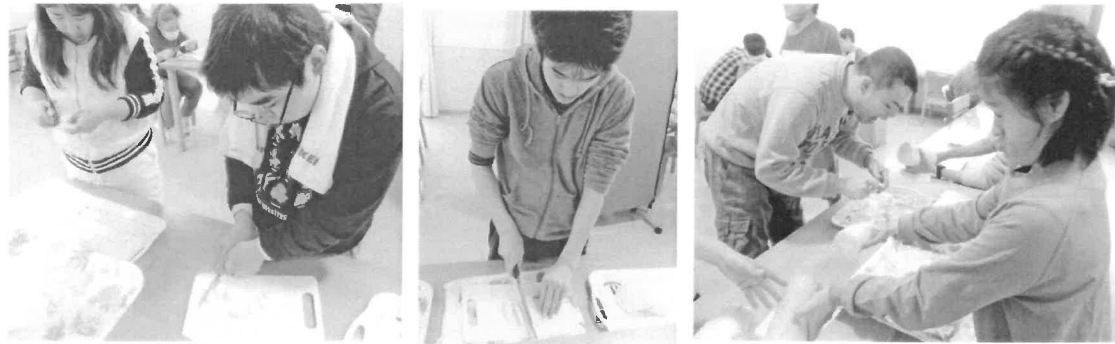
# ポプラ

管理者 松井 保隆

現在、新型コロナウイルスは世界的な大流行となっており、感染拡大を防ぐために、かなな会でも対策をとっています。施設内で感染者が出てしまうと施設の性質上、集団感染は避けられず非常事態となります。手洗い・うがいはじめ、マスク・消毒の徹底、職員・利用者さん、及び家族の健康状態を考慮し、発熱がなくても咳や吐き気などあればお休みをお願いしています。

この様な状況のため、今まで行っていた外出は控えてポプラの建物内で行う活動が多くなっています。建物内でのレクリエーションとして、フラダンスや映画会・カラオケなどは人気の活動ですが、DVDエクササイズや風船パレールなど皆で体を動かす機会も多く行っています。先日は初めて「お菓子屋さん」を行いました。おやつをたくさんのお菓子の中から自分で選び食べます。様々な駄菓子を一つ一つじっくり見ながら選ぶ人、大ききで選ぶ人など色々でしたが賑やかに皆楽しめていました。

近所の農家さんから大量の大根をいただいたときは切り干し大根作りをしました。大根を洗う・皮をむく・切る運ぶなどの工程を皆で行っています。器用に大根を時間いっ



ぱい黙々と切る人もいて意外な特技を知る機会ともなりました。

いつまで続くかわからない今の状況ですが、利用者さんが楽しみとなる活動を増やしていけたらと思います。

## かななの里相談支援事業所

相談支援専門員 君野 文子

私共は障害のある方の相談を受けておりますが、ご本人やご家族に関わることで、色々な職種の方と連携する機会が多々あります。

相談支援専門員として働いていると、障害福祉サービスやその事業所については詳しくなっていますが、半面、無意識にそこに当てはめるようなことが起こっているかもしれません。

同じ障害、年代、相談内容であっても、ご本人の希望や状態、背景等によって必要な支援は千差万別。福祉サービスの活用だけでなく、ご本人の力や障害福祉サービス以外の部分にも視野を広げて支援していけるよう、研鑽を積んでいきたいと思えます。

災害や感染症など経験のないことに直面することも増えました。色々な方と協力し支え合える関係作りも相談支援事業所の役割だと感じております。

## 沢山の善意 ありがとうございます

(令和元年度)

- 荻野節子 (順不同・敬称略)
- 小野支部社協
- 藤間よしの 竹村折枝
- 藤岡市園芸協会果樹部会
- 群馬県蒟蒻協同組合

- 後藤あゆみ 今井直美
- 遠藤道代 須貝靖子
- 西須薬局 倉沢貞子
- 飯島愛子 後藤 修
- 山田房子 岩井教平
- ・東朋会、毎年11月かななの里のボランティア清掃をして貰っています。

・新型コロナウイルス対策として、藤岡市よりマスク〈各事業所に多数〉



・佐藤隆孝(新極真会、佐藤道場) アルコール除菌タオル、シート等



- ・小保方勇 マスク
- ・桜井智子 手作りマスク
- ※かななの里、アート工房R 班でも、手作りマスクを作りました。

## かななの里

令和元年10月～令和2年3月

### 〈事故報告〉

内訳 薬の落葉・誤薬 計・35  
器物損壊  
転倒

利用者の加害 1  
所在不明 1  
誤飲 2  
投薬に関するミスは今回も多かったです。飲み込んでも吐き出してしまいうこともあり、要注意。

### (苦情解決) 令和元年度

計 5

ショート利用者の保護者の訴えが多かった。連携ミスの場合は、しっかりと受け取め、今後無くすよう努める。

### 編集後記

平成31年3月で20年目を迎えたかなな会 かななの里も、早いもので21年目が過ぎてゆきました。令和の幕開けでもありましたが、10月の台風19号の被害と、今年に入ったの新型コロナウイルスの蔓延と、地球環境の悪化が日に日に押し寄せてくるこわさを感じるこの頃です。一日でも早く、元の普通の穏やかな日々が訪れてきますように祈っています。

(NS)